

第 36 回日本環境感染学会抄録

演題名 (60 文字)

COVID-19 パンデミック時における、血液培養のコンタミネーションの増加について
大城里紗 1)、福井由美子 1) 森下直美 2)、岩田健太郎 3)

- 1) 兵庫県立加古川医療センター薬剤部
- 2) 兵庫県立加古川医療センター看護部
- 3) 神戸大学病院感染症内科

本文

目的：COVID-19 感染症治療中の二次細菌感染は、患者に重大なリスクをもたらす。パンデミック期において血液培養のコンタミネーション（以下、コンタミ）の増加が懸念され、調べることにした。

方法：COVID-19 患者を受け入れ始めたパンデミック期間として、2020 年 4 月から 12 月 (PP) とパンデミック前の期間として 2019 年の同時期 (PPP) において当院に入院中に血液培養提出があった患者を調査対象とし電子カルテにて、全患者と、救命部門（重症 COVID-19 診療部門）における患者の血液培養提出件数、コンタミ件数、真の感染症件数を後ろ向きに調査し、カイ二乗検定を用いて解析を行った。

結果：PP に合計 346 人の COVID-19 患者が入院した。PPP と PP でそれぞれ、1,040 と 918 の血液培養を行い、38 と 56 のコンタミが発生した (3.7% (95%CI 2.6%-5.0%)、vs6.1% (95%CI 4.6%-7.8%)、 $P=0.015$)。救命部門では、同期間に 10 と 32 のコンタミが発生した (5.0% (95%CI 2.4%-9.0%)、vs12.5%(95%CI 8.7%-17.1%)、 $P=0.0097$)。救命部門を除いた病棟での 2 期間でのコンタミ率に有意差はなく (3.3% (95CI 2.2%-4.8%)、vs (3.6% (95CI 2.3%-5.4%)、 $P=0.65$)、救命部門において真の感染症が 21 と 20 発生した。延べ入院日数あたりの真の感染症は優位に増加した (0.004vs0.01、 $P=0.0009$)。

結語：救命部門において、COVID-19 パンデミック中に血液培養のコンタミが大幅に増加する一方で、真の感染症も増加することが分かった。COVID-19 患者から血液培養を採取するための安全で効果的な方法を模索する必要がある。(579/600 文字)